

平成28年度使用中学校教科用図書調査研究答申

安芸高田市教科用図書採択地区選定委員会

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

種目	国語
第1推薦	38 光村
第2推薦	2 東書

各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
02 東書	観点1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新出漢字を次のように示している。 脚注に行数、音訓、用例を示す。 巻末に、ページ数、音訓、部首、画数、筆順、用例を示す。</li> <li>・巻末に「新出音訓一覧」として、ページ数、新出音訓、用例を示している。</li> </ul>
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「話すこと・聞くこと」「書くこと」を扱うページを上下2段に分け、上段に学習の流れ、下段に具体例などを提示している。</li> <li>・「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材の前に「学びの扉」を配置し、直前の教材で学習したこととの関連を示している。</li> </ul>
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文、「基礎編」「資料編」の3部構成で、「資料編」に読み比べたり読み広げたりできる教材を掲載している。</li> <li>・「書くこと」の3年間合計ページ数が、5発行者中、最も多い。</li> </ul>
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻末の「学びを支える言葉の力」では、言葉の力を「実用的な言葉の力」「論理的な言葉の力」「創造的な言葉の力」の3項目6種類に分類し、学年に応じて系統的に示している。</li> <li>・1学年説明的な文章において文章と図表との関連について考えさせる教材は、3教材19ページ掲載されている。図表の種類が多い。</li> </ul>
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「書くこと」の学習を1・2学年は6回、3学年は5回設定し、詩歌の創作やレポート、批評文、手紙、ミニ雑誌の編集などがある。</li> <li>・言語活動充実の手立てとして、資料編に「話すこと・書くこと題材例」や「発想・整理の方法」の解説がある。</li> </ul>
11 学図	観点1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新出漢字を次のように示している。 脚注に行数と本文中の読みを示す。 教材末にページ数、音訓、用例を示す。</li> </ul>
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「話すこと・聞くこと」「書くこと」を扱うページを上下2段に分け、主に上段に学習の流れ、下段に学習の見通しや具体例などを、図表を多用して提示している。</li> <li>・「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材の前または後に「活動を考える」を配置し、直前の教材で学習したこととの関連を示している。</li> </ul>
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文、「言語の学習」「日本文学の流れ」「口語・文語活用対照表」の4部構成で、本文「読むこと」の学習では、第一教材・第二教材に続いて選択教材を掲載している。</li> <li>・「読むこと」「伝統的な言語文化」「言葉の特徴やきまり・漢字」の3年間合計ページ数が、5発行者中、最も多い。</li> </ul>
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻末に「古典に親しむために」として、全学年とも歴史的仮名遣い・文法・古語等の資料を掲載している。</li> <li>・1学年説明的な文章において文章と図表との関連について考えさせる教材は、3教材14ページ掲載されている。図表の種類が少ない。</li> </ul>

	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書単元を各学年 2 回設定し、掲載作品に係る評論も含め、3～5 作品を掲載している。</li> <li>・言語活動充実の手立てとして各単元の「読むこと」の作品の内容からつなげて、表現活動に係るコラム「活動を考える」を設定し、「話す・聞く」「書く」活動への準備としている。</li> </ul>
15 三省堂	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新出漢字を次のように示している。 脚注に行数と本文中の読みを示す。 教材末にページ数、音訓、用例を示す。 巻末に、ページ数、音訓、部首、画数、筆順、用例を示す。</li> <li>・巻末に「○学年で学ぶ音訓」として、ページ数、新出音訓を示している。</li> </ul>
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「話すこと・聞くこと」「書くこと」を扱うページの脚注部分を広く取って学習の流れやポイントなどを提示し、具体例や学習活動の説明に、イラストや図表を多用している。</li> </ul>
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文と「資料編」の 2 部構成で、「資料編」に読み比べたり読み広げたりできる教材を掲載している。</li> <li>・「話すこと・聞くこと」の 3 年間合計ページ数が、5 発行者中、最も多い。</li> </ul>
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学ぶ力を高めよう」では、学びを深めるための手法を「さまざまな思考方法を使う」「メモを活用する」等の 7 つに分け、学年に応じて示している。</li> <li>・1 学年説明的な文章において文章と図表との関連について考えさせる教材は、3 教材 17 ページ掲載されている。図表の量は少ない。</li> </ul>
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「書くこと」の学習を 1・2 学年は 5 回、3 学年は 4 回設定し、レポート、行事案内リーフレット、地域情報誌、小論文などを書く活動がある。</li> <li>・言語活動充実の手立てとして、資料編「学ぶ力を高めよう」で、思考や調査、表現の方法について図を使って解説している。</li> </ul>
17 教出	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新出漢字を次のように示している。 新出漢字が出た行の脚注に漢字のみを示し、本文中にルビをふる。 教材末にページ数、音訓、用例を示す。 巻末に、ページ数、音訓、部首、画数、筆順、用例を示す。</li> <li>・巻末に「○年で読みを学習した漢字・語」として、ページ数、新出音訓を示している。</li> </ul>
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「話すこと・聞くこと」「書くこと」では「学びの重点」を設定して各教材で身につけさせる学習内容を提示し、話し合い例や文章例の下部に「活動のポイント」を示している。</li> </ul>
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文と「資料編」の 2 部構成で、「資料編」に読み比べたり読み広げたりできる教材を掲載している。</li> <li>・「読むこと」の 3 年間合計ページ数が 5 発行者中で 2 番目に多い。</li> </ul>
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻末の「学びのチャレンジ」では本文で学習したことを振り返り、さらに学習を進めるための課題を示している。</li> <li>・1 学年説明的な文章において文章と図表との関連について考えさせる教材は、4 教材 21 ページ掲載されている。図表の数は最も多い。</li> </ul>
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「書くこと」の学習を各学年 5 回設定し、図表を用いた報告や四コマ漫画から意見文を書く、広告を批評するなどの活動がある。</li> <li>・言語活動充実の手立てとして、「言葉の自習室」で、アイデアの出し方、インタビューの仕方などを説明している。</li> </ul>
38 光村	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新出漢字を次のように示している。 脚注に行数と本文中の読みを示す。 教材末にページ数、音訓、用例を示す。 巻末に、ページ数、音訓、部首、画数、筆順、用例を示す。</li> <li>・巻末に「○学年で学習した音訓」として、ページ数、新出音訓、用例を示している。</li> </ul>
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「話すこと・聞くこと」「書くこと」を扱うページを上下 2 段に分け、上段に学習の流れ、下段に具体例などを提示している。</li> <li>・「話すこと・聞くこと」「書くこと」の学習活動は 4 つのステップで構成され、テーマを決めたり立場や根拠を考えたりする手順を示している。</li> </ul>

観点3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2・3学年は、本文と「文法」「漢字に親しもう」「学習を広げる」の4部構成、1学年は「言葉に出会うために」を加えた5部構成で、「学習を広げる」に読み比べたり読み広げたりできる教材を掲載している。</li> <li>・ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「言葉の特徴やきまり・漢字」の3年間合計ページ数が5発行者中で2番目に多い。</li> </ul>
観点4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 巻末の「漢字に親しもう」では、小学校6学年で学んだ漢字（書き）の練習を問題形式で示している。</li> <li>・ 1学年説明的な文章において文章と図表との関連について考えさせる教材は、4教材23ページ掲載されている。図表の種類が多い。</li> </ul>
観点5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「書くこと」の学習を1・2学年は5回、3学年は3回設定し、鑑賞文や物語を書くなどの活動がある。また、書く内容を整理する方法や推敲などを、「練習」として各学年3回設定している。</li> <li>・ 言語活動充実の手立てとして、資料編で、表現活動のテーマ例や情報の収集方法などを解説している。</li> </ul>

※ すべての発行者について調査研究を行い、番号順に記載する。